

研修報告書No. 1 6

所 属：東京大学医学部附属病院研修医
研修先：大月町国民健康保険大月病院
宿毛市立沖の島へき地診療所

平成28年1月4日から28日の約1ヵ月間、高知県の宿毛市国民健康保険大月病院で地域研修を行いました。大月町は高知県の西南端で、土佐清水市と宿毛市の間に位置し、海辺で釣りやダイビングを目的とした観光客が多く訪れ、カツオやグレといった魚介類の美味しい町です。人口は5,540人、65歳以上の割合は4割と高齢化が進んでおり、90歳でも車の運転をするほど元気なご老人も沢山いらっしゃいます。町内の医師は7人で、病院は大月病院のみであるため、大月町の医療は主に大月病院での診療と訪問診療で賄われています。大月病院は診療科が外科の **primary** 対応を含む内科と歯科口腔外科の2科、病棟数は25床の病院で、医師は4名、専門に関係なくほぼ全ての **primary care** を行っています。手術や人工呼吸器管理、透析等の必要な重症患者に関しては手術室やICUのある幡多けんみん病院等へ搬送しています。

外来は午前医師2人、午後医師1人で70人ほどの患者さんを診察しています。具体的には、定期健康診断、糖尿病患者の血糖コントロール、高血圧患者の血圧コントロール等の内科疾患の他、骨粗鬆症・変形性膝関節症・頸髄性脊椎症術後の患者さんの膝や肩の注射、火傷の処置、創傷処置、指に刺さった魚骨の除去、予防接種、技師不在日の Xp や CT の撮影操作等を行います。大学病院では救急搬送された患者さん以外は、殆どクリニック等で **primary** の診察を終えた患者さんが紹介されて受診してくること、研修では主に病棟業務担当となることから、外来での **primary care** は非常に新鮮で大変勉強になりました。初めに、内服薬に関しては、初めは“今日の治療薬”を辞典代わりに調べるばかりでついていくのが大変でしたが、日ごとに調べる回数は減っていき診断や治療方針等他の事柄にも目を向けられるようになりました。大学病院での電子カルテ上の処方では3文字入力すれば候補薬が出てきてしまい、薬名を完全に覚えていなくても処方できてしまうので、紙カルテでの処方は慣れるまでが大変でした。次に、創傷処置に関しては今まで被覆材等拘ったことがなく、ガーゼなどを多用していましたが、創傷治療の DVD を参考にしながら、如何に傷を早く・綺麗に直すかに重点を置き、被覆材の種類に拘って処置を行ったことは今後のちょっとした病棟業務で活かせると思いました。また、院長先生の専門が整形外科であったこともあり、休日に高知市内で行われた”運動器エコーを用いた筋膜リリース”の勉強会で学んだ技術を翌週から早速実践させて頂き、整形外科志望である自分にとって今後の為となるととても良い経験となりました。消化器内科を専門にしている先生もいらっしゃったことから、肝臓の解剖も含む腹部エコーや胃カメラも経験させて頂きました。

午後の往診では、上級医の先生の運転で看護師さんと共に柏島等少し遠出をして患者さんのご自宅まで診察に行ったり、近くの老人ホームや介護施設へ定期診察に伺いました。

往診の頻度は大体月に1回で、来院できない患者さんが殆どです。寝たきりの患者さんも多いため、褥瘡の治療をしたり、訪問リハも行われていました。往診は患者さんの生活背景を拝見しながら患者さんとの距離も近い形で、他愛無い会話をしながら診察を行うところがとても好きでした。

一日だけ沖の島の診療所研修にも参加させて頂き、島に2つある診療所で島民の診察を行いました。島の診療所にある限られた内服薬と血圧計、血算・生化・血糖測定、Xpで診察し、重症患者はドクターヘリで高知県内の病院へ搬送するためヘリポートがありました。

このように地域医療研修では、大学病院では学べない、外来患者の初診対応、ご自宅や老人ホームでの往診、島の診療所での診察を中心に学ぶことができました。外部から来た初期研修医を温かくご指導して下さいました大月病院医師・看護師・事務の方々、丁寧に地域研修の手配をして下さった高知医療再生機構の皆様に心より感謝申し上げます。